



2015年 第1回

JMRC中部ラリー講習会



2015年4月18日

JMRC中部ラリー部会

1. 「ラリー」とは？

ラリーとは、数あるモータースポーツのカテゴリーの1つで、特徴として次の点があります。

1. 一般の車が走る公道および一般の通行が規制された山間部の林道等をコースとして使用する。
2. ドライバーとコ・ドライバー（ナビゲーターとも言われます）の2名が乗車。
3. 全国の運輸支局の車検に合格しているナンバー付きの車両による競技で、JAF（一般社団法人日本自動車連盟）が規定するラリー車両規定を遵守し製作された車両のみ出場可能。
4. 競技は、1分毎に1台ずつ決められたタイムスケジュール通りに走行するものであるが、当然のことながら公道においては、道路交通法を遵守し、交通違反は一切許されない。
5. 道路管理者及び警察の許可を得て、一般の通行が規制された占有区間におけるスペシャルステージでは、1分毎に1台ずつ0.1秒単位で走行時間が計測されるタイムトライアルが実施され、全てのタイムトライアルの合計タイムの少ない（つまり早く走った）チームが上位の成績となる他、規則に違反するとタイムペナルティが与えられたりや失格となることがある。

つまり、ラリーは厳格なルールの下、国や自治体、道路管理者、警察および通行する地区の住民の許可を得て行われる最も公共性の高いモータースポーツなのです。

一般に、ラリーが露出する場面は、スペシャルステージが多く派手なアクションや高度なテクニックが注目されるが、ドライバーは一般の模範となるモラルが求められる紳士のスポーツなのです。

ラリーの主な歴史

- 1911年……世界初の自動車ラリー、モンテカルロラリー開催
- 1973年……FIA世界ラリー選手権（WRC）創設
- 1980年……JAF全日本ラリー選手権創設
- 1982年……JMRC中部ラリーチャンピオンシリーズ発足
- 2000年……国内でWRC方式のSSラリーが始まる
- 2001年……日本初の国際ラリー（アルペンラリー）開催
- 2004年……WRCラリージャパン初開催
 - 第1回新城ラリー（地方選手権で昼間のSS）
- 2006年……JAFがSSラリー開催規定を制定
 - 全日本選手権が全てSSラリーとなる
 - JAF中部・近畿ラリー選手権が発足（中部地区と近畿地区が共同開催）
- 2007年……新城ラリーが全日本選手権に昇格
- 2010年……JMRC中部ラリーチャレンジシリーズ発足



ラリーの種類

種類	概要	主な競技
スペシャルステージ (SS) ラリー	道路を占有したスペシャルステージを何カ所か走行し、フィニッシュ時にそのSSタイムの合計が少ない選手が勝利となるラリー	WRC、APRC、全日本ラリー選手権、中部・近畿ラリー選手権、JMRC中部チャレンジシリーズ
アベレージラリー (リライアビリティラン)	主催者の指示した速度(アベレージ)で走行し、所要時間の正確さを競うラリー。減点が少ない選手が勝利となる。アベレージ走行のみの第1種と、一部SS区間から成る第2種がある。	中部地区では開催されていません。近畿地区や関東地区で開催されています。
ラリーレイド (クロスカントリーラリー)	主催者が発行するロードブックをたよりに、走行ルートを選びながら長距離を走破するラリー。過酷な環境のため、ベース車両はクロスカントリー4WDが用いられることが多い。	ダカールラリー アジアクロスカントリーラリー クロスカントリーバハ
ラリークロス	グラベルサーキットを使用して複数のマシンが同時に走行するレース形式の競技。2014年からFIA世界ラリークロス選手権が開始。	WorldRX グローバルラリークロス選手権

ラリーの路面の違い



●グラベル（未舗装路）

グラベルは砂利や石が多い路面や砂が多い路面、硬く締まった路面など変化に富んだ路面状況が特徴です。国や地域によって路面の状態も多種多様です。



●ターマック（舗装路）

グラベルと比べればグリップレベルは高く、ある程度一定ですが、舗装の状態やアスファルト、コンクリートといった違いなど、路面状況の変化もあります。



●スノー（雪路）

グラベルもしくはターマックに氷や雪が積もった路面が一般的ですが、湖の上のような純粋な氷上路面もあります。

(1)世界のラリー

世界のラリーは FIA 世界ラリー選手権(WRC)を頂点として、FIA が管轄する世界各地の FIA リージョナル(地域)ラリー選手権、各国選手権といったピラミッドが形成されています。頂点である



WRC では自動車メーカーによるワークスチームが世界タイトルを懸けて激しい戦いを繰り広げています。

ラリーは F1 などのサーキットレースと異なり、最高峰の WRC にもプライベートによる参戦が可能となっています。様々なレベルの参加者が自分に合ったクラスを選んで楽しめるのもラリーの特徴と言えるでしょう。

FIA リージョナル(地域)ラリー選手権は6地域で開催されています。そのうち日本はアジア・パシフィックラリー選手権(APRC)に属しており、そのシリーズには毎年北海道の帯広市を中心に開催される APRC ラリー北海道が組み込まれています。

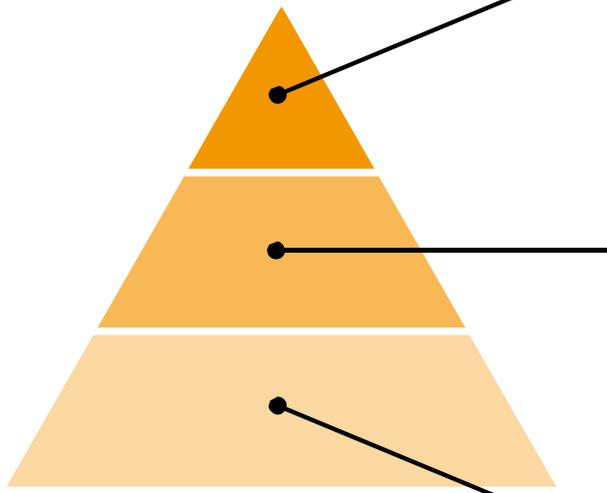
(2)日本のラリー

日本のラリーは、JAF 全日本ラリー選手権を頂点として、全国5地域で JAF 地方ラリー選手権が開催されています。中部地区では、近畿地区と合同で、JAF 中部・近畿ラリー選手権が開催されており、2015 年は、愛知、福井、三重、富山、京都、兵庫そして愛知で7戦が予定されています。さらに、中部地区単独で初心者を対象に JMRC 中部ラリーチャレンジシリーズを、前述の地方選手権と併催で愛知、三重、富山、そして愛知の4戦が予定されています。

近年、全日本ラリーはギャラリーステージやイベント会場を設置し、観客も楽しめる要素を積極的に取り入れ、参加者だけでなく地域やファンをも取り込んで大きな盛り上がりを見せています。

また、トヨタ車を中心とした TRD ラリーチャレンジおよび TRD チャレンジカップというシリーズが、あります。

世界のラリー



WRC FIA 世界ラリー選手権
国際C級ライセンス以上



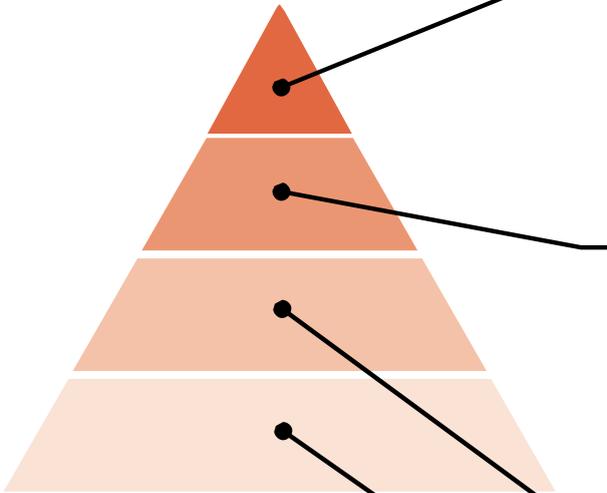
FIA リージョナル ラリー選手権
(アジア・パシフィック/ヨーロッパ/アフリカ/中東/南米/中南米)
国際C級ライセンス以上



各国ナショナル選手権
国内Bライセンス以上
(日本の場合)

FIA が管轄するラリーは WRC を頂点としてリージョナル(地域)選手権、ナショナル(各国)選手権となっている。ただし各国選手権は国ごとの ASN が実施するもので FIA は直接関与していない。

日本国内のラリー



JAF 全日本ラリー選手権
国内 B ライセンス以上



JAF 地方ラリー選手権
(JAF 中部・近畿ラリー選手権)
北海道/東日本(東北+関東)/中部・近畿/中四国(中国+四国)/九州
国内 B ライセンス以上



ラリー選手権
国内Bライセンス以上



ジュニア選手権/その他参加型ラリー
国内Bライセンス以上
※クローズドクラスはライセンス不要

(3)ラリーに参戦するための準備

ラリーに出場するためには事前に競技ライセンスを取得し、クルーの装備や参戦車両を準備する必要があります。

① 国内Bライセンスを取得する

ライセンスはJAFが定める公認競技に出場する際に必要なものです。JAF公認競技のため、参戦するには国内B級ライセンス以上が必要となります。国内B級ライセンスを持っていれば、JMRC中部ラリーチャレンジシリーズをはじめ全日本選手権まで、国内で開催されるほとんどのラリーに参戦可能です。

国内Bライセンスは毎月各地のJAF公認クラブや加盟クラブが開催しているライセンス講習会などを受けることで取得できます。

②ドライバー/コ・ドライバーの装備品を揃える

モータースポーツでは、乗員を守るための安全装備が必須です。ラリーの場合は頭部を守るためのヘルメットをはじめ、レーシングスーツ、レーシンググローブ、レーシングシューズなどが必須装備とされています。

レーシングスーツやレーシンググローブなど身につけるものはFIA公認が望ましく、事故の際にドライバーを救出しやすいようにショルダー部にベルトが装着されていたり、燃えにくい不燃性繊維を使用しているなど、安全性に配慮した仕様となっています。

ラリー競技は危険を伴うため、安全に配慮した準備はとても重要です。安全にラリーを楽しむために万全の準備を心がけてください。

SSラリーに必要なドライバー/コ・ドライバーの装備



ヘルメット

2014年JAF国内競技車両規則第4編付則「ラリー競技に参加するクルーの装備品に関する付則」に従うこと。製造より10年以上経過したものは使用できない。



レーシングスーツ/グローブ/シューズ

2014年JAF国内競技車両規則第4編付則「ラリー競技に参加するクルーの装備品に関する付則」に従ったものを推奨。スーツは義務づけ。グローブとシューズは推奨だが、装備するのがベスト。

参加車両

①競技車両を用意する

ラリー競技車両は一般公道を走行することからすべてナンバー付きの車両となります。ラリーでは、クラスごとに改造範囲が細かく分類されています。クラス区分は、車種や排気量、年式などが異なるクルマ同士が競技を楽しめるように設定されています。もし規定に反する改造を行った場合は、ラリー前の車検によって失格になってしまう可能性もありますので、部品交換時などは注意が必要です。

クラス区分や改造範囲などについては、JAF車両規則、JMRC中部ラリー共通規則、競技会特別規則書を確認する必要があります。

②ラリー競技車両に必要な安全装備を搭載する

ラリーでは競技中にアクシデントで壁などに衝突したり、車両が横転することも考慮しなければなりません。そんな時、ドライバー／コ・ドライバーの安全を確保し、被害を最小限に止めるために車両の安全装備は欠かせません。6点式＋サイドバー以上のロールケージ（RF／RPN車両）、4点式以上のシートベルトは規定された必須装備となっています。また、ラリー競技車両に搭載しておくべき安全装備品として、消火器、三角反射表示板、非常用信号灯、牽引ロープ、救急薬品などが規定されています。緊急時に必要な「OK」「SOS」マークは取り出しやすい位置に、確実に固定しておく必要があります。

③事前に車両の点検・整備を行う

ラリーでは車両の各部に大きな負荷がかかります。そのため、ラリー終了後もしくは次のラリー参戦前には、車両各部の増締めやオイル類の点検・交換などが必要です。

点検・整備で、簡単な作業は自分自身が行うことも可能です。

①ブレーキ ②オイル・液類 ③室内の変形・亀裂・損傷等 ④バッテリー ⑤ワイパー ⑥ベルト類 ⑦ライト類 ⑧タイヤ ⑨エンジン ⑩下回りなどの点検が必要です。場合によっては、経年損耗部位やブレーキパッドなどの消耗が見つかることもあります。安全はもちろんのこと、競技車両に起因する競技中のトラブルやアクシデントを防ぐことも良い成績を残すために重要なポイントです。

競技当日に行われる車両検査（車検）では、オイル漏れなどの安全面のほか、灯火類やシートベルトなどの安全装備の点検が行われます。いずれかひとつでも基準を満たさない車両は出走できませんのでご注意ください。

ラリーベース車両の種類

- ナンバー付きの一般市販車がベース
- 「JAF 国内競技車両規則」のラリー車両に従ったラリーカー（RJ/RN/RF 車両）



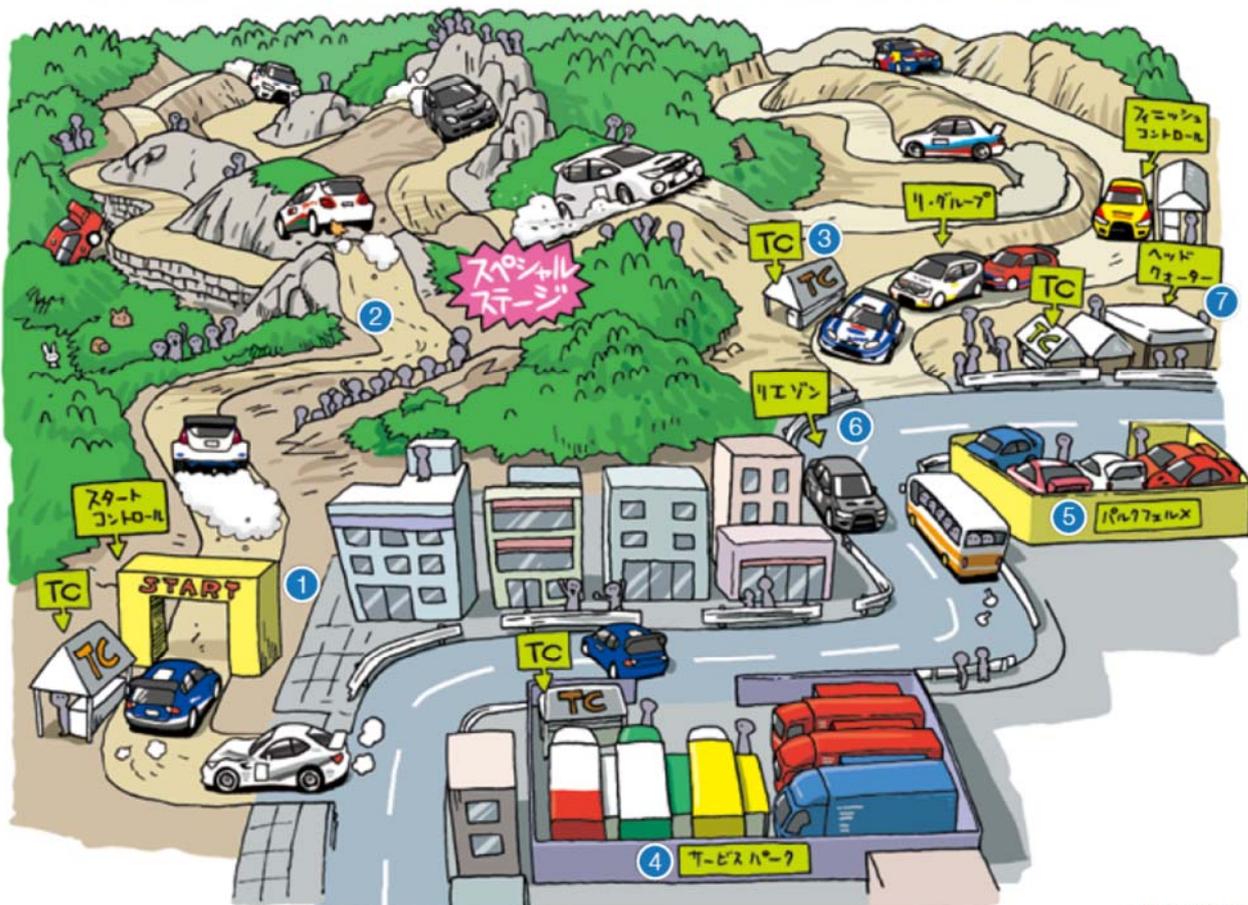
SSラリーで義務づけられている安全装備品

- ロールケージ（6点式＋サイドバー以上）
- シートベルト（4点式以上）
- 内容量2kg以上の化学消火器
- 三角反射表示板（2枚）
- 非常用信号灯
- 赤色灯
- 牽引ロープ
- 救急薬品など
- 「OK」（緑色）「SOS」（赤色）A3サイズ（2枚）

③ラリー参戦に必要な知識

》ラリーのしくみ

競技区間のスペシャルステージでのタイムと移動区間のリエゾンを走行しながら進行



Illustration/Atsushi Arino

たくさんのマシンが一齐にスタートするサーキットレースと違い、ラリーは複数の競技区間（スペシャルステージ=SS）を1台ずつタイムアタックし、その積算タイムで勝敗を争います。SSとSSの間は、一般の道路を一般の交通とともに移動します。これは「リエゾン」と呼ばれ、ラリー競技の特徴のひとつです。SSは基本的に立ち入りが禁止されており、観客は主催者によって定められたギャラリーエリアかリエゾン（ロードセクション）あるいはサービスパークで観戦することになります。



① スタート

全日本ラリー選手権では、1台ごとの出走間隔は特別規則書に明記されない限り、1分ごととされています。SSのタイムは0.1秒まで計測され、すべてのSSの合計タイム+ペナルティタイムにより、勝敗が決定されます。



② スペシャルステージ

スペシャルステージは全開のタイムアタック区間です。ドライバーたちが技量のすべてを尽くして駆け抜ける様子は迫り満点。ステージのタイムはスタート地点とフィニッシュ地点に設置された光電管で計測されます。



③ タイムコントロール

ラリー競技ではSSの走行時間以外のあらゆる行動が選手ごとに分単位で指定されています。それをチェックするのが様々な場所に設置されたタイムコントロール（TC）です。選手はすべてのTCを必ず通過しなければなりません。



④ サービスパーク

車両の修復やセッティング変更を行う場所がサービスパークです。大きくダメージを受けた車両をみるみる修復していく熟練メカニックの手際はまさに「プロの仕事」。基本的には見学することも可能ですが、周囲にはサービスパークに出入りするラリーカーがいますので注意！



⑤ パルクフェルメ

「マシンの整備等が禁止されている場所」ですが、ほとんどの場合は1日の競技終了後でラリーカーを保管しておく場所を意味します。また、競技進行の時間調整、車列調整のために設けられる場合もあります。この時間調整は「リグループ」と呼ばれています。



⑥ リエゾン

SSとSSをつなぐ区間はリエゾン（ロードセクション）と呼ばれ、ラリーカーは一般車と一緒に交通法規を守って移動しなければなりません。自分のクルマで観戦している場合には、ラリーカーとすれ違ったりすることも。ただし、選手は競技中ですので非常識な行動は控えて。



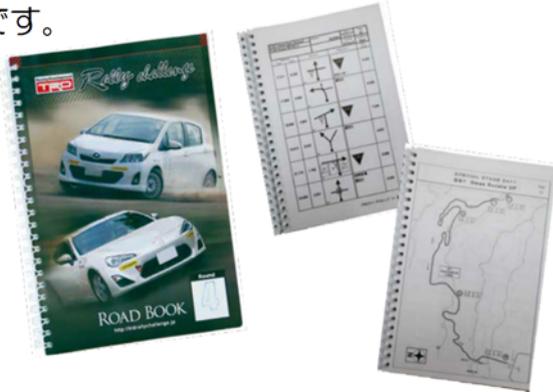
⑦ ヘッドクォーター

ラリー競技全体を運営・管理する本部がヘッドクォーターです。ラリー会場近隣のホテルや公共施設などに設置されることが多く、報道関係者の仕事場であるメディアセンターや記者会見場が設置されたり、様々な通達やステージのリザルトが掲示される場所でもあります。

ラリーに出場するためには、ロードブックに記載されている内容を理解することが不可欠です。その読み方をご紹介します。

①ラリーのことがすべて書かれている「ロードブック」

ラリーに絶対に必要なものが「ロードブック」です。ロードブックには、ラリーを完走するために必要なことがすべて書かれています。競技中のスケジュール、アイテナリー、リエゾン(SS間の移動)やSSの順路を示した略式図(通称:コマ図)などが含まれています。選手はこのコマ図に従って走行することで、初めて走るルートでも完走することができます。なお、このコマ図の表記方法は基本的に万国共通です。



ロードブックには、スケジュールやアイテナリー、コマ図のほか、リタイヤ時に提出する「リタイヤ届け」や、CROに問い合わせを行うことができる「エンクワイアリーシート」なども綴じ込まれている。

②ラリーのスケジュール

ラリーの1日の流れを知るためには、ロードブックのスケジュールを確認することがもっとも便利です。

「レッキ(レキ)」はコースの下見のこと。ラリーでは本番前に必ず安全確認のためSSの下見を行い、SSラリーでは「ペースノート」を作ります。これは、SSの道の形状や路面状態などを、ドライバーがすべて数字と記号で表し、それをコ・ドライバーが聞いて書き記したものです。ラリー本番でSSを走る際には、コ・ドライバーがそれを読むことによってドライバーがあらかじめ道の形状や走行方法をイメージできるようになります。

続いて、ラリーに出場するための「参加確認/受付」を行います。免許証、競技ライセンスなどを確認した後ゼッケンが渡され、それを車両の規定位置に貼ります。

続いて、「車両検査(車検)」を行います。一般道を走行するうえで必要な灯火類の点検から、安全装備を中心としたチェックなどが行われます。無事に車検に合格すると「JAF公認ラリー競技会之証」が交付されるので、競技車両にしっかり貼っておきましょう。

競技開始前には「ドライバーズブリーフィング」が行われます。ここでは、コマ図の更新やコース上の注意すべき場所の情報などが主催者から伝達されます。競技者はこのドライバーズブリーフィングに必ず参加しなければなりません。

このようなスケジュールを経て、いよいよラリーがスタート。SSやリエゾンを走行し、昼にはサービスが設けられています。サービスではマシンの整備などを決められた時間内で行い、午後の走行へ。すべての走行が終わったらラリーはフィニッシュです。

ラリースケジュール(例)

第18条 タイムスケジュール

特別規則書に記載されています。

① 参加(レッキ)受付の日時・場所	4月18日11:30~11:55	ラリー-HQ
② レッキブリーフィングの日時・場所	4月18日11:55~12:00	ラリー-HQ
③ レッキ開始、終了時間	4月18日12:00~16:00	
④ 公式車検の日時・場所	4月18日16:00~17:00	やまびこの丘敷地内
⑤ 第1回審査委員会の日時・場所	4月18日17:00	ラリー-HQ
⑥ スタートリストの公示	4月18日17:30	ラリー-HQ
⑦ ドライバーズブリーフィングの日時・場所	4月18日17:30	やまびこの丘敷地内
⑧ 懇親会	4月18日18:00~21:00	やまびこの丘BBQ場
⑨ ラリースタート(1号車予定)	4月19日 8:00	やまびこの丘敷地内
⑩ ラリーフィニッシュ(1号車予定)	4月19日15:00	やまびこの丘敷地内
⑪ 暫定結果の発表日時・場所(予定)	4月19日15:30	ラリー-HQ
⑫ 再車検日時・場所(予定)	4月19日15:30	やまびこの丘敷地内
⑬ 表彰式の開催日時・場所(予定)	4月19日16:00	やまびこの丘敷地内

③ アイテナリー

アイテナリーはラリーの競技スケジュールを分刻みで記した行程表です。ここには TC/SS の間の距離と所要時間が書かれています。記載されている時刻は1号車の到着時刻で、2号車以降は1号車の時間+走行順に応じて1分ずつ追加した時間となります。書式は世界共通のため、各国のSSラリーでも同様のものが使われています。

SS ラリーの行程は「TC=タイムコントロール」と、「SS=スペシャルステージ」に分かれています。TCでタイムカードをオフィシャルに渡して時刻を記録してもらい、SSでは自分のスタートタイムになったら走り始めます。ここで規定の時間よりも早くスタートしたり、スタートが遅れた場合はペナルティの対象となります。

走行後の車両のメンテナンスやセッティング変更を行える「サービス」が設けられていることもあります。一般的な2デイ以上のラリーでは走行距離に応じて朝/昼/夕方に1回ずつ設けられますが、それぞれ与えられている時間が異なるため、すべての項目を修理したりセッティングを見直すことはできません。優先順位を見極めることもラリーを戦ううえでの戦略となります。

また、ラリーの距離や状況に合わせて「リフューエル」や「リグループ」が設けられることもあります。リフューエルは公式に認められた燃料補給のための時間、リグループはリタイヤや遅延などでラリー中に変わってしまった走行の間隔や順番を調整するために設けられています。

2015/4/19 Sunday

TC	Location	SS dist.	Liaison dist.	Total dist.	Target time	First car due	
SS	場所	SS距離	リエゾン距離	総移動距離	目標所要時間	先頭車時刻	
0	Rally Start 山びこの丘					8:31	Section 1
1	七久保(Nanakubo)	—	11.870	11.870	0:32	9:03	
SS1	雁峰北リバース1	5,744	—	—	0:03	9:06	
2	塩瀬(Siose)	—	11.748	17.492	0:42	9:48	
SS2	ほうらいせん一念不動1	6,246	—	—	0:03	9:51	
2A	Regroup In 山びこの丘	—	22.122	28.368	1:00	10:51	
2B	Regroup Exit , Service In	—	—	—	0:15	11:06	
Section1 Total		11,990	45.740	57.730			
2C	Service Exit 山びこの丘	—	—	—	0:20	11:26	Section 2
RZ1	Refuel (丸紅 大海SS(株式会社しんせき))		(9.651)	(9.651)			
	Totals to Refuel (スタートからリフューエルまでの距離)	(11.990)	(55.391)	(67.381)			
	Distance to Rally Finish (ラリーフィニッシュまでの距離)	(11.990)	(43.004)	(54.994)			
3	七久保(Nanakubo)	—	18.436	18.436	0:47	12:13	
SS3	雁峰北リバース2	5,744	—	—	0:03	12:16	
4	塩瀬(Siose)	—	11.748	17.492	0:42	12:58	
SS4	ほうらいせん一念不動2	6,246	—	—	0:03	13:01	
4A	Parcferme IN 山びこの丘	—	22.471	28.717	1:00	14:01	
Section3 Total		11,990	52.655	64.645			
Rally Total		23,980	98,395	122,375			

TC4Aは、早着によるペナルティはありません

④コマ図 (リエゾン)

スケジュールやアイテナリーはラリーの行程やクルーが移動する時間を案内するためのものですが、移動する場所については地名などの名称しか書かれていません。そこで必要になるのがロードブックに含まれている「コマ図」です。

ラリーはコマ図に従って走行することで進行します。コマ図で表されるのは、道の状況や目印と、その図までの距離のみです。

●コマ図の読み上げ方

リエゾンでもSSでも、ドライバーは運転していますので、コ・ドライバーがコマ図に記載されている内容を読み上げ、ドライバーに情報を与える必要があります。

コマ図の読み方は自由ですが、よく使われる読み方の代表例があります。経験者などに聞きながら、ドライバーに正確に伝わる読み方を身につけることが必要です。

また、コマ図に略式で記載されている標識や目標物は、「Information」に分かりやすいように大きく書かれます。

●その他のコマ図に含まれる情報

コマ図にはそのほかにも色々な情報が入っています。例えば信号機の略図やカーブミラーなど、道路標識や目標物の略図をしっかりと覚えることで、無駄なミスコースを防ぐことができます。

TC 0 Kuroze		Distance		Day	Page
TC 1 Nanakubo		11.870 km		1	8
		Average		Target time	
		22.2 km/h		32 mins	
Distance Total Part		Direction		Information	
Distance To Go					
0.000	0.000	←	1	TC0 Rally Start 	11.870
0.619	0.619	→	2	 左右注意	11.251
1.855	1.236	↙	3	 老老勢	10.015
3.404	1.549	←	4	 長楽	8.466
6.199	2.795		5	青い橋 	5.671
6.690	0.491	↗	6	ミスコース注意	5.180

⑤ラリー中に使われる標識の意味

ラリーに参戦するうえで必ず覚えておかなければならないのが、様々な標識(サイン)です。これらはラリーで通過する各 TC やコース上に設置されており、円滑なラリーの進行に不可欠なものです。これらの意味をしっかりと理解しなければ、いくら速く走ることができてもラリーを完走することはできません。標識のデザインは世界共通で、言語や開催国を問わず、すべてのラリーで使われています。

これらはラリーを経験していくことで徐々に覚えていくこととなりますが、まずはもっとも重要なスタート/フィニッシュ/ストップの標識は必ず覚えておきましょう。

また、SS やリエゾンを走行する際に使う「ロードブック(コマ図)」にも同様の標識が使われていますので、標識を理解することはラリーにおいて欠かせません。

SSで使われる標識



TC(タイムコントロール)予告

この標識からコントロール解除までの間は車両整備禁止です。この標識の先へは TC チェックイン時刻の 1 分前からしか入れません。



TC (タイムコントロール)

TC 予告の約 25m 先にあるのが TC 標識です。直前の TC で指定された時刻に合わせて、この標識にたどり着かなければなりません。



コントロール解除

TC 予告標識からコントロール解除標識までの区間をコントロールゾーンといい、この区間では一切の車両整備作業が行えません。



SSのスタート

SSのスタート位置を示す標識です。ここでオフィシャルによるカウントダウンが行われます。自分の時刻が来たらスタートします。



SSフィニッシュ予告

SSフィニッシュの約 100m 手前に置かれる標識が SS フィニッシュ予告。ここから赤い STOP 標識までは停車禁止なので要注意です。



SSフィニッシュ

この標識までがタイム計測区間ですが、この 100~300m 先に出てくる STOP 標識までは停止せずにそのまま走り抜けます。



ストップ

SSフィニッシュ後の STOP 標識が出てきたらストップ。タイムカードにタイムを記入してこの後のコントロール解除まで走行します。

⑥タイムコントロール (TC) の通過方法

SS ラリーは、タイムコントロール(TC)と呼ばれる計測場所で、競技車の走行時間を管理しています。その仕組みをご紹介します。

●TC(タイムコントロール)

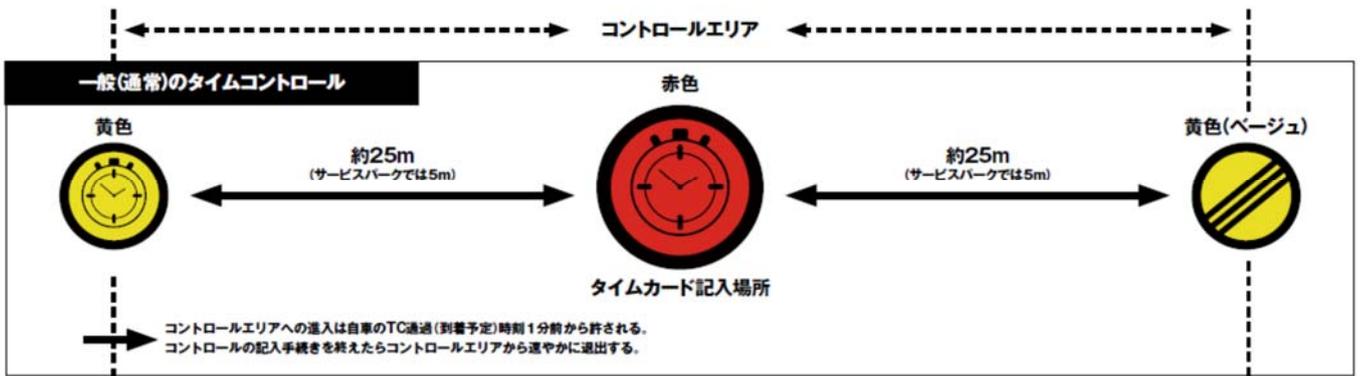
TCというのは、赤い時計マークが書かれた標識の場所です。この約 25m 手前には必ず黄色の TC 入口標識があります。一般的に、「次の TC に何時何分に入らなければならない」というターゲットタイムにはある程度余裕があり、この黄色標識の手前であれば、停車して時間調整をすることができます。

●コントロールエリア

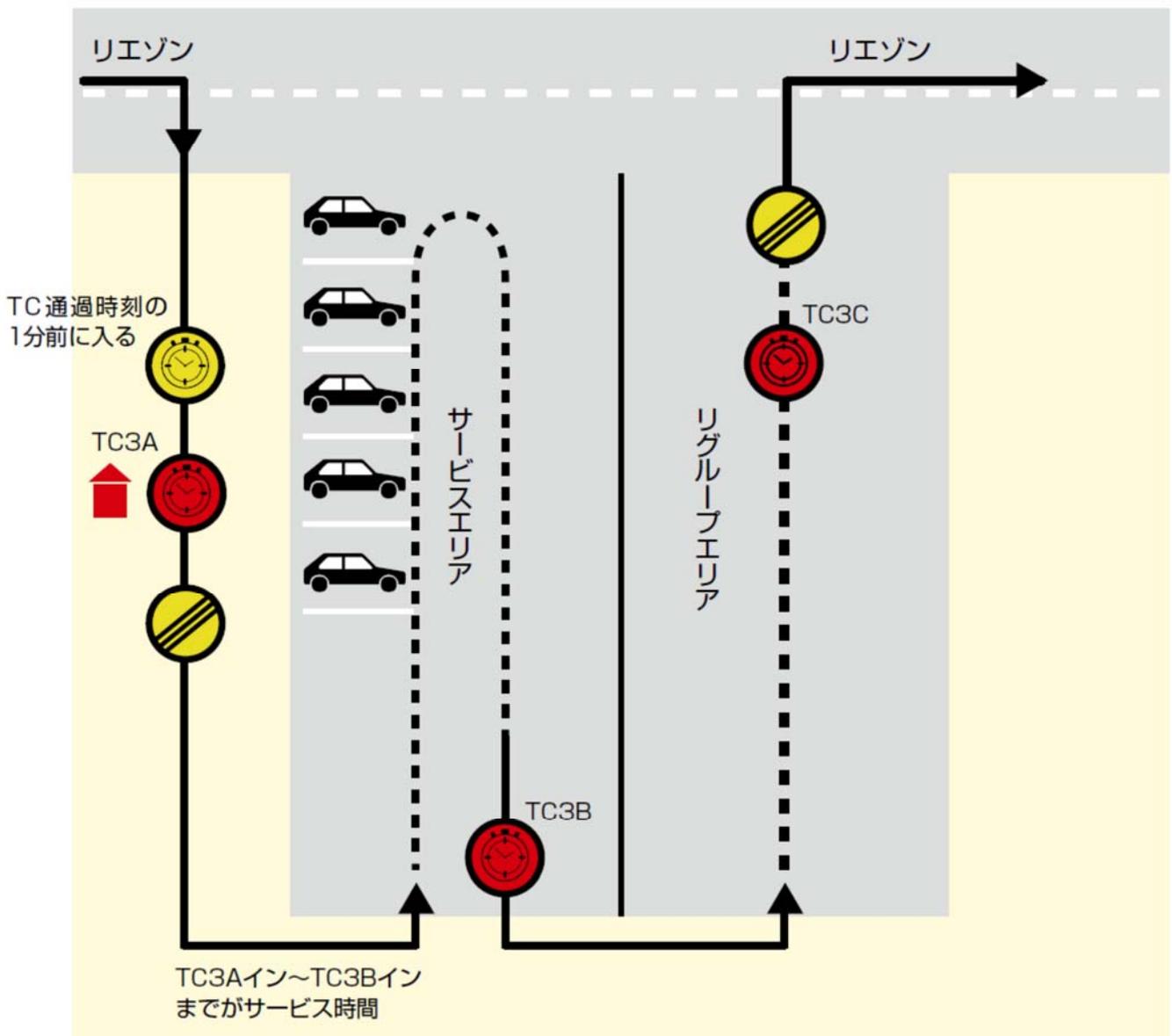
黄色の TC 入口標識を越えて、次の黄色地に斜線が入った標識までの間は「コントロールエリア」と呼ばれています。コントロールエリア内には、TC 通過時刻の 1 分前から入り、赤色 TC 標識の地点に停車することができます。1 分以上前に入ってしまうと早着のペナルティを受けてしまいますので、必ず「1 分前を過ぎたら黄色の TC 入口標識に入る」と覚えてください。

赤色標識地点では、自分の通過予定時刻(TC イン予定時刻)の 00 秒を過ぎてから、オフィシャルにタイムコントロールカードを提出してください。通過時刻が記載されます。コントロールエリアでは車両の整備作業はできません(窓拭きのみ許されています)。その TC での作業が終わったら、黄色の TC 解除の標識までの区間から速やかに退去してください。この区間でボンネットを開けて様子を見たり、タイヤの空気圧を調整するなどの行為を行うと、整備作業とみなされペナルティの対象になりますので注意してください。

タイムコントロール(TC) 基本編



サービスのTC(例)



●SS スタート/フィニッシュを含むタイムコントロール

TC の後に SS がある場合も、黄色の TC 入口標識の前で1分前まで待機し、1分前になったら進入して自分の通過予定時刻にカードを出す、という流れは同じです。

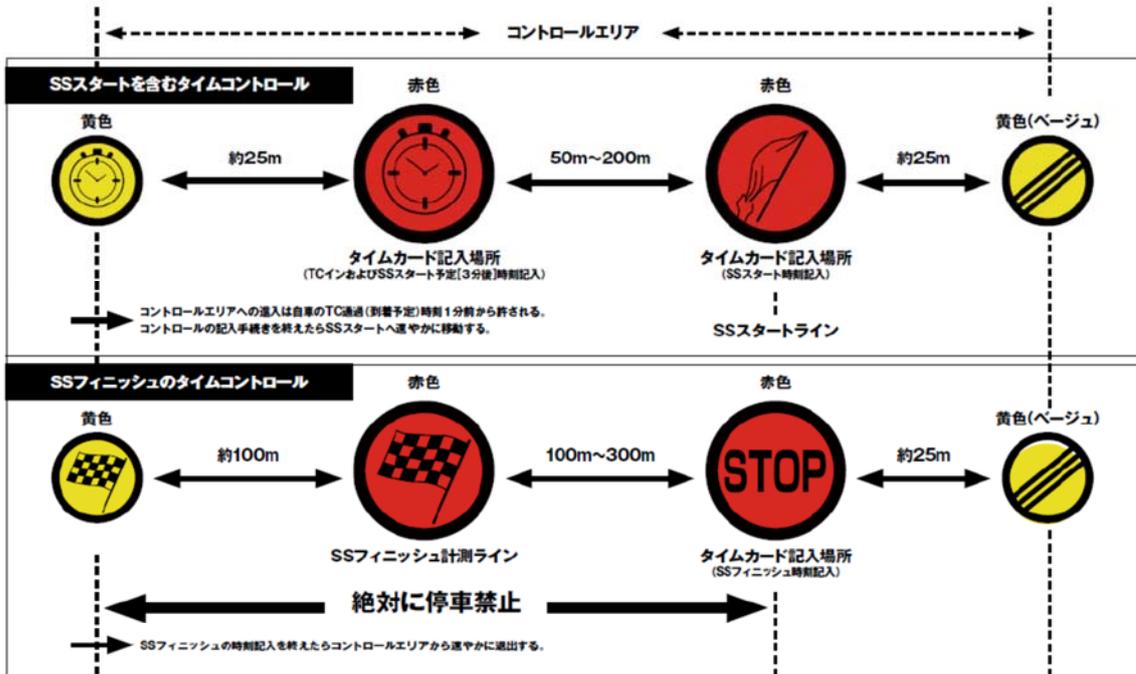
ここで、TC 通過時刻に加え、必ず3分後の「SS スタート予定時刻」がオフィシャルによって記入されます。その3分間で 50~200m 先にある SS スタートまで進んでください。

SS スタートでは再びタイムコントロールカードを提出して実際の SS スタート時刻を記入しても

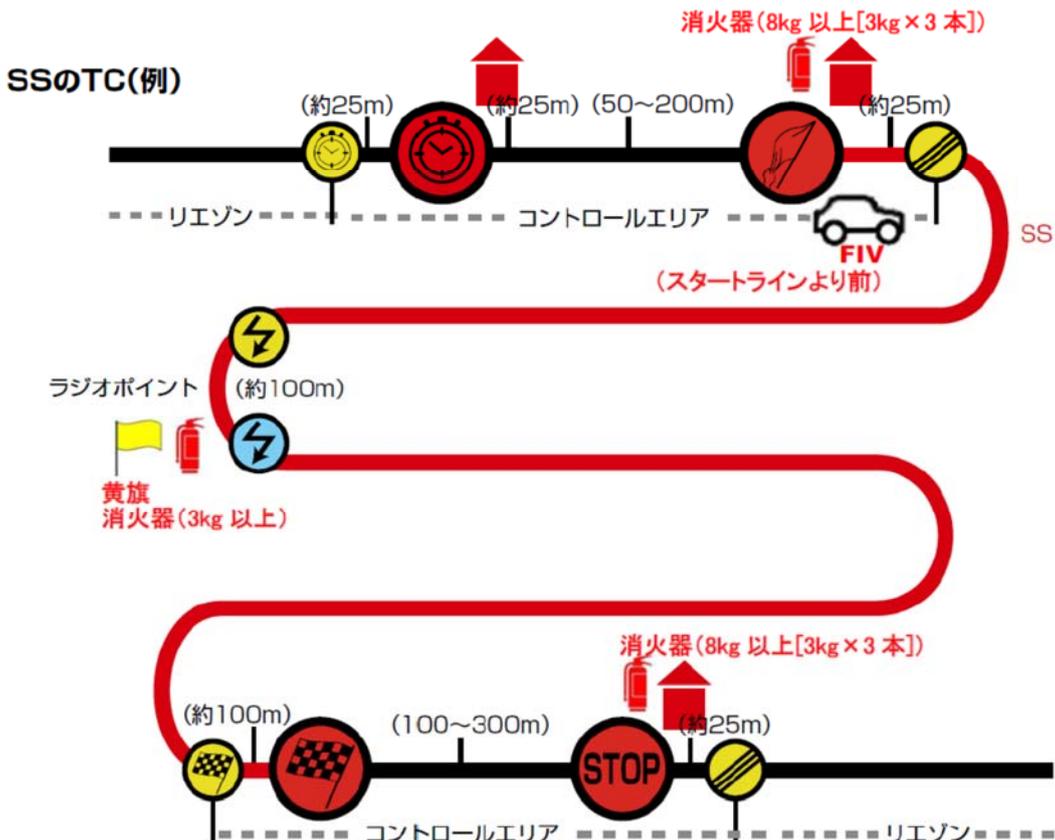
らいますが、進行上にもトラブルがない場合は、TC で書き込まれた「3分後」の時刻が SS のスタート時刻となります。このSSスタートもTCと同じく、スタートを切ってからコントロールエリア終了標識までの間は停止してはいけません。

フィニッシュの場合も、まず黄色いフィニッシュ予告標識があって、その後に赤いSSフィニッシュ標識があります。このフィニッシュ標識は計時ラインの場所なので、ここまでは全速力で走り、その100m~300m先のストップ標識で停止します。このフィニッシュ標識とストップ標識の間もコントロールエリアとなるので停車禁止です。もしここでコースアウトして止まってしまうとペナルティを受けてしまうので注意してください。

タイムコントロール(TC) SS編



- コントロールエリア内はパルクフェルメとなるので、車両についてはオフィシャルから指示のあった場合を除き、一切の作業を行ってはならない。(SSスタート時の窓拭きなどのみ除く。水などの補給は禁止)
- コントロールエリア内では一連の手続きに必要な時以外、停車したり異常に遅いスピードで走行してはならない。



⑦タイムカード（TCカード）の使い方

参加受付の際、ロードブックとともにタイムカード(TCカード)が交付されます。TCカードはラリーの行程に沿って TC や SS の通過時刻を記録するためのもので、1台に1枚しかありません。TCカードを受け取ったら、自分でゼッケンを記入しておいてください。フィニッシュを除く赤いTC標識のところで必ずオフィシャルに渡し、そのTCの通過時刻あるいはSSのスタート時刻を記入してもらいます。

TCカードは絶対になくさない場所に保管してください。

TCカード(例)

	TC0 TC Start	Hr Min	+	TARGET TIME Hr Min 00 32	Competitor Use (選手使用) TC到着予定時刻 Hr Min	SIGN	CAR NUMBER
	TC1 TC Arrive	Hr Min	+	最低3min	スタート予定時刻 Hr Min	SIGN	
	SS1 SS Start	Hr Min				SIGN	
	SS1 SS Finish	Hr Min Sec 1/10		STOP	Time Taken(SS所要時間) Min Sec 1/10	SIGN	
	SS1 Actual Start	Competitor Use (選手使用) 前SSスタート時刻 Hr Min	+	TARGET TIME Hr Min 00 42	Competitor Use (選手使用) TC到着予定時刻 Hr Min		CAR NUMBER
	TC2 TC Arrive	Hr Min	+	最低3min	スタート予定時刻 Hr Min	SIGN	
	SS2 SS Start	Hr Min				SIGN	
	SS2 SS Finish	Hr Min Sec 1/10		STOP	Time Taken(SS所要時間) Min Sec 1/10	SIGN	
	SS2 Actual Start	Competitor Use (選手使用) 前SSスタート時刻 Hr Min	+	TARGET TIME Hr Min 01 00	Competitor Use (選手使用) TC到着予定時刻 Hr Min		CAR NUMBER
	TC2A TC Arrive	Hr Min				SIGN	TC2Aがサインし 控えを切り離す
	TC2A TC Start	Hr Min			リグループアウト時刻 Hr Min	SIGN	CAR NUMBER
	TC2B TC Arrive	Hr Min	+	TARGET TIME Hr Min 00 20	Competitor Use (選手使用) TC到着予定時刻 Hr Min	SIGN	
	TC2C TC Arrive	Hr Min	+	TARGET TIME Hr Min 00 47	Competitor Use (選手使用) TC到着予定時刻 Hr Min	SIGN	
	TC3 TC Arrive	Hr Min	+	最低3min	スタート予定時刻 Hr Min	SIGN	

(5)これだけは覚えてほしい安全のための知識

どんなに安全に気をつけていても、競技を行う上では様々なアクシデントに見舞われることもあります。そんな時にどう対処すべきかを、あらかじめ覚えておきましょう。

①困った時はまず CRO に連絡

実際にラリーに出場していると「こんな時はどうすればいいのか」「こういうケースではどう動けばいいのだろう」といったことは、初心者・入門者に限らず、中級者・ベテランでもよくあります。

そういった場合には、CRO(コンペティター・リレーション・オフィサー)という役務の競技役員に相談することができます。

CRO は参加者と主催者と審査委員会の間に立ち、様々な内容を調査し、参加者にアドバイスをしてくれます。TRD ラリーチャレンジでは毎戦必ずラリー当日の公式通知で CRO の連絡先(携帯電話番号)が公示されていますので、スタート前に必ず連絡先を控えておきましょう。

TRD ラリーチャレンジでの CRO は、何でも教えてくれる先生のような存在です。例えば、サービスイリアにリグループが設定されている場合に、「この TC にはどうやって入ったらいいんですか?」とか、「このやり方で合っているのでしょうか?」といった基本的なことから、アクシデントが起きた場合にはどうすればいいのかなど、ラリーに関することは何でも答えて助けてくれます。

また、リエゾン区間を走行中に渋滞に巻き込まれてしまい、どうしても TC 通過時刻に間に合わないといった場合にも、あらかじめ CRO に「こういう理由でこうなりました」ということを連絡しておく、救済処置を行ってくれることもあります。

「困った時にはまず CRO に連絡する」ということを覚えておいてください。

②「OK」「SOS」ボードの意味

「OK」「SOS」ボードはトラブルに見舞われた競技車のクルーが状況を後続車に伝えるためのものです。「OK」はメカニカルトラブルなどで車両は止まってしまったが、重篤な状況になく、救助が必要ない状態を示します。「SOS」は重篤なトラブルで救助が必要な場合を示します。コースアウトしてクルーが負傷した場合もこちらを使います。



③アクシデントに見舞われたら……

ラリーはSSを速く走ることで順位を競うモータースポーツです。そのためSS中は自分がコースアウトをしてしまったり、前のクルマがコースアウトをしてタイムトライアルの続行が不可能な状況になったり、色々なケースのアクシデント・トラブルが考えられます。

車両火災や人命に関わる重大な事故が起きた場合、あるいは競技の進行がスムーズに行うことができないという緊急時にはオフィシャルが救助に向かいますが、トラブルが起きたときの安全確保や緊急時の措置として、参加者として必ず覚えておいていただきたいルールがあります。

まず、SSで競技車両がやむを得ず停車した場合は50m手前の目立つ場所に三角停止板を設置し、後続車に適切な合図を行わなければなりません。車両がコース上にない場合も同様です。そのうえでクルーに怪我や車両火災などが無い場合は、後続車両に向けて「OK」マークを提示してください。提示する場合はコース脇もしくは路肩の上に上がるなどして、自分たちの安全確保を最優先して後続に提示するようにしてください。後続車両は1分後には走行しますので、2次災害が起きないように注意

が必要です。

万が一、車両火災が起きてしまったり、あるいはドライバーやコ・ドライバーが怪我をしてしまったり、救急医療措置が必要もしくは消火が必要な場合は、「SOS」マークを提示します。「SOS」マークは車両の破損や移動できないといった場合に出すものではありませんので注意して下さい。

「SOS」マークを発見した後続のクルーはすみやかに停車して救助にあってください。その際、できる限り後ろから来る車両が通過できるように車両を停車します。救助作業が行われている場所に到着した2台目のクルーは、すみやかにその先のラジオポイントまで事故があったという報告に向かう必要があります。それ以降の車両は、緊急車両が通過できるように道の脇に車両を停止させ、救助に向ってください。

車両がかなりのダメージを負っていてクルーが車室内にいると思われる（クルーが確認できず、「SOS」「OK」の提示がない）場合も同様の手順となります。

後続車が通過できる限り競技は続行されます。自分がこれ以上競技を続けられない場合はすべての競技車が通過した後に来るスーパーにリタイヤ届けを提出します。その後どうしたらよいかは、オフィシャルと相談してください。

これらの対応は、万一の場合に生死を左右する安全上重要な内容ですので、正しい対応を常に確認しておくことが大切です。

やむを得ずSS内で停車した場合

- ▶すみやかに三角停止板2枚を50m後方に設置する

救急医療措置が不要な場合もしくは消火が不要ない場合

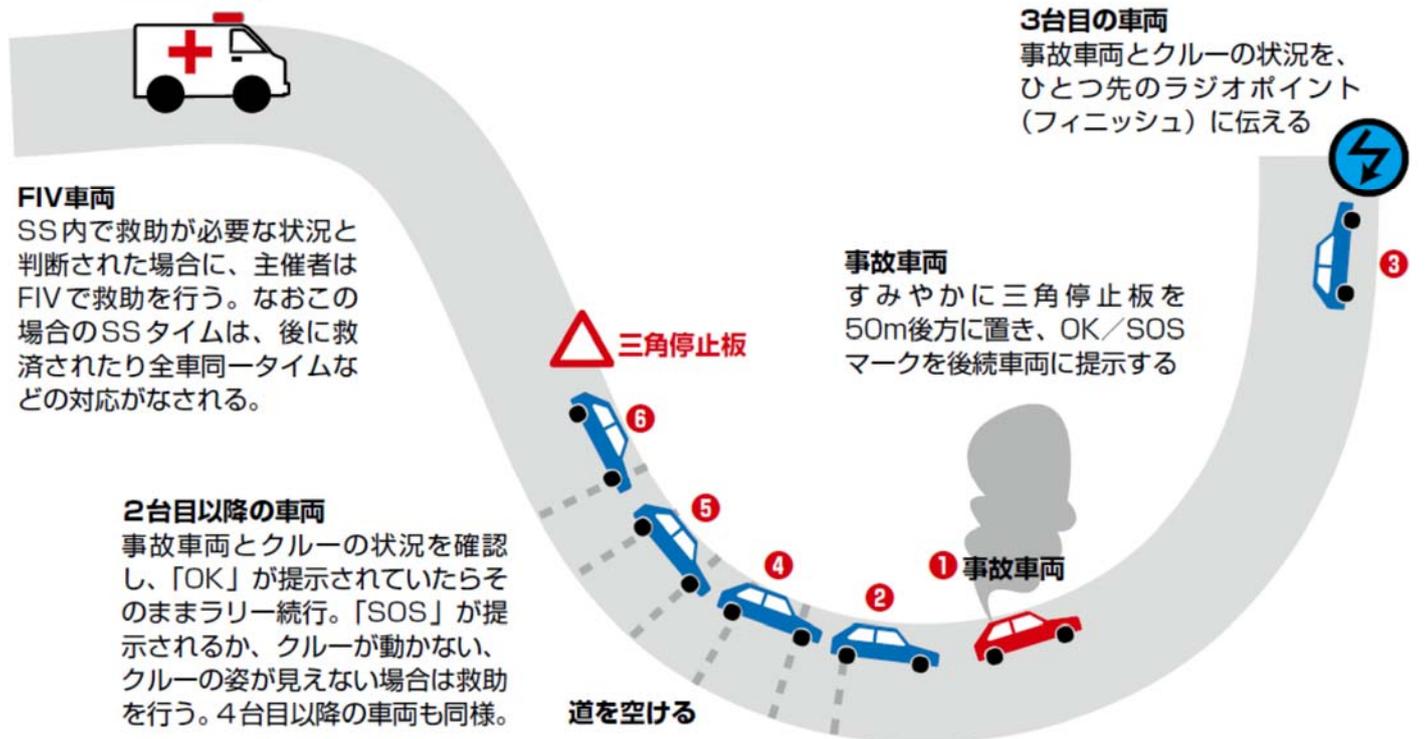
- ▶停止したクルー：安全な場所から少なくとも3台の後続車両に明確に「OK」マークを提示する
- ▶2台目以降のクルー：安全な速度で通過する
- ▶クルーが車両から離れる場合は、後続車にはっきりと見える場所に「OK」マークを掲示しておく

救急医療措置が必要な場合もしくは消火が必要な場合 「OK」「SOS」のどちらの提示もなく車両が かなりのダメージを負っていてクルーが 車内にいると思われる場合

- ▶停止したクルー：「SOS」マークを提示する
- ▶2台目のクルー：ただちに停車し、後続車両の停止を促し、救助を行う
- ▶3台目のクルー：次のラジオポイントまで行き、状況を説明する
- ▶以降の後続車は緊急車両のための車幅をあけて停止し、援助を行う

※1分後には後続車両が来るので注意してください。

SOS が提示された場合の対処方法



ラリー競技開催規定付則スペシャルステージラリー開催規定第25条15.による

スペシャルステージで参加車両がやむを得ず停車した場合、競技クルーの安全確保・確認を行った後、直ちに以下の対応を行うこと。

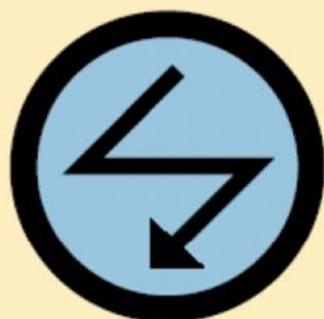
- 1)クルーはその場所から少なくとも50m手前の目立つ場所に反射式の三角表示板を後続車両が確認しやすい場所に配置し、後続車両に適切な合図を行わなければならない。
なお車両がコース上にない場合も三角表示板を配置しなければならない。
この規則に従わないクルーは審査委員会の判断によりペナルティが課される。
- 2)参加車両には、片面に赤字で「SOS」、もう片面には緑字で「OK」と書かれたA3判のカードが搭載されており、救急医療措置が不要な場合もしくは消火が必要無い場合は、「OK」ページを少なくとも3台の後続車両に明瞭に提示すること。
また他に援助を行おうとしている者（ヘリコプター等）があれば、それらに対しても同様に提示すること。
停車車両がコース上の場合は、状況に応じて停車状態をボディアクション等で後続車両に対し、当該区間最終参加車両通過まで合図すること。
- 3)その後速やかに復帰が可能か否かを判断すること。
- 4)復帰可能と判断した場合、安全確保を最優先に作業を実施する。
特に後続車両が接近した場合は作業を中断し安全な場所へ退避すること。
- 5)復帰不可能と判断した場合、当該区間最終参加車両通過まで車外の安全な場所まで退避すること。
- 6)クルーが車両から離れる場合は、後続車にはっきりと見える場所に「OK」ページを提示しておくこと。
- 7)近接した地点に複数車両が停止した場合、夫々の車両が上記1)～6)を実施すること。
- 8)救急医療措置が必要な場合もしくは消火が必要な場合は赤色の「SOS」ページを提示すること。
これが提示されていた場合、後続車は下記の手順に従う。
また「OK」「SOS」のどちらの提示もなく、車両がかなりのダメージを負っていてクルーが車両内にいると思われる場合も同様の手順に従うこと。
 - ①援助するために直ちに停止する。その他の後続の車両も停止し、事故現場に1番目に到着した車両は、事故のことを知らせるために次のラジオポイントまで行く。
 - ②それ以降の後続車は緊急車のための車幅をあけて停止し、援助を行う。

1 SOS/OKサイン



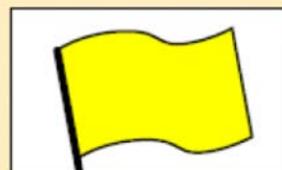
後続車が停止する可能性は、負傷者がいてSOSサインが出された場合以外に、競技車がコースを塞いだ場合、および火災発生の可能性がある。

2 ラジオポイント



ラジオポイント標識

- ラジオポイントはロードブックコマ図に必ず明記し、レッキの段階で位置を各クルーがあらかじめ確認できるようにすること。
- ラジオポイントは「無線が配備してある場所」という意味で、通常はここにトラッキング係員、コース要員が待機しています。コース上でトラブルが発生した場合も、後続車はまずここまで来て報告します。
- イエローフラッグが提示されるのもラジオポイントです。ここにはイエローフラッグが必ず常備され、またクルーもここでイエローフラッグの提示がされていないかの注意が必要となります。



3 FIV/救急車



付録 ラリー関連用語

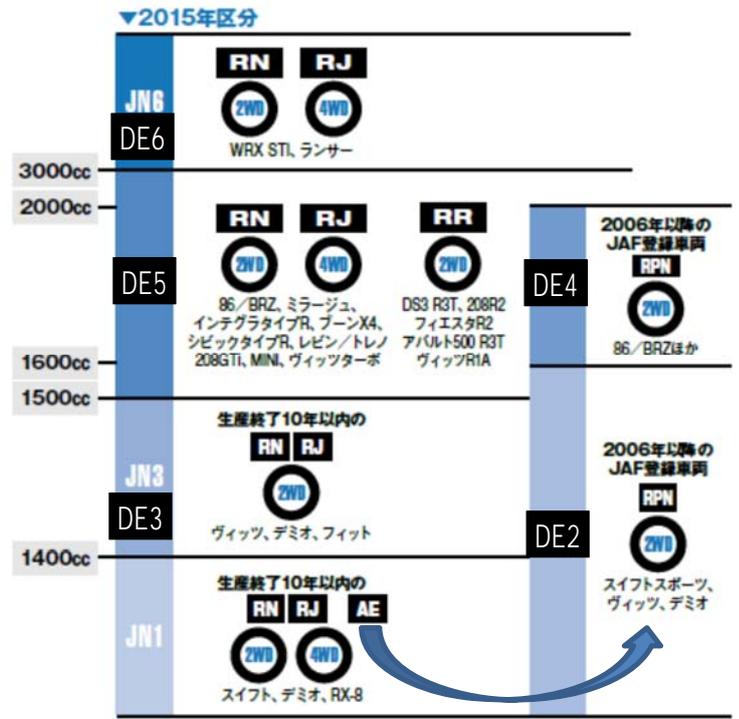
用語	説明
レッキ (レキ) Recce	ラリーの事前試走のこと。TRDラリーチャレンジでは早朝に1回のみだが、WRCや全日本ラリーではラリー前日までに各2回ずつ走行する。走行時には道路交通法の速度制限を守って走行する必要がある。
リエゾン Liaison	SS区間の間の一般道を走行する移動区間。ロードセクションとも呼ばれる。道路交通法の速度制限や標識などを守って走行する必要がある。
スペシャルステージ (SS) Special Stage	走行タイムを計測する競技区間。日本では道路占有許可を取得し、封鎖されたなかで走行する。
ペースノート Pace note	SSのコース状況などを記録したノート。レッキでドライバーが読み上げたものをコ・ドライバーが記録し、本番ではコ・ドライバーがペースノートを読みドライバーに伝える。コーナーの曲率の基準、記号、読み方など、競技者によって様々な表記方法がある。
タイムコントロール (TC) Time Control	ラリー車両の通過時刻を計測する場所。赤い時計の標識で表され、タイムカードを提出して自分の通過時刻をオフィシャルに記録してもらう。
サービスパーク Service Park	ラリー中に車両整備などを行う場所。
バルクフェルメ Parc Ferme	車両保管所のこと。ここでの車両整備は一切の作業が禁止される。ラリーではあらかじめ決められた車両保管場所の他に、TCのコントロールエリアに進入してから退出するまでの間、SSのスターティングエリアまたはグルーピングエリアに進入してから退出するまでの間もすべて車両保管状態となり、一切の作業が禁じられる。
ヘッドクォーター (HQ) Head Quarter	ラリーの運営本部。
アイテナリー Itinerary	ラリーの進行や時間を明記したスケジュール。
緊急車両 (FIV)	重大な事故や負傷者が出た際に出動する緊急車両。万が一の時のために、ボディを切断したり救急救命対応をするための装備などが備え付けられている。
タイムコントロール (TC) Time Control	赤い時計の標識が置かれた場所のこと。SSラリーではこの場所でオフィシャルにタイムカードを渡し、自分の通過時刻などを書いてもらう。
コントロールエリア Control Area	TCの前に置かれた黄色のTC予告標識から、次に置かれた黄色の解除標識までのエリア。このエリア内での車両整備は禁止されており、行くとペナルティとなる。TC予告標識にはTCイン予定時刻の1分前を過ぎた時点から通過可能となる。

JAF 中部・近畿ラリー選手権 (JMRC中部ラリーチャンピオン シリーズ)のクラス区分

基本的に、排気量と車両区分でクラス
が決められています。

車両区分

RN車両	FIA/JAF公認車両をベースにして作られるラリーカー。
RJ車両	JAF登録車両をベースにして作られるラリーカー。
RR車両	FIAのグループR(R1~R3)として公認された車両で、日本の保安基準に適合し、ナンバーを有する車両。
RPN車両	2014年からの新规定でノーマルに近い。2006年1月1日以降のJAF登録車両が対象。



JMRC中部ラリーチャレンジシリーズ のクラス区分

クラス	排気量	車両区分
CL 2	1500cc 超	RN, RJ, RF, RPN, RB
CL 1	1500cc 以下	//

JAF 中部・近畿ラリー選手権でのポイント表

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
得点	10	8	6	5	4	3	2	1

JMRC中部ラリーチャンピオンシリーズ・チャレンジシリーズポイント表

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	完走
得点	10	8	6	4	3	2	1

中部・近畿地区ラリーカレンダー

	中部・近畿選手権	中部チャンピオン	中部チャレンジ	全日本ラリー	TRDラリー
4/18~19	① MASC	① MASC	① MASC		
6/5~6	② シンフォニー	★ シンフォニー		③ シンフォニー	
6/27~28	③ ON!	② ON!	② ON!		
7/25~26	④ AND	③ AND	③ AND		
8/29~30	⑤ OECUAC	★ OECUAC			④ OECUAC(CUP)
9/27					④ AND(TRD)
10/3~4	⑥ シロキヤ	⑥ シロキヤ	④ シロキヤ		
10/16~18				⑧ MCSC	
10/30~1				⑨ MASC	⑤ MASC(TRD)
11/7~8	⑦ 神大	★ 神大			

★は、JMRC中部加入クラブのクラブ員は、ポイント対象となります。

詳細は、JMRC中部ラリーWEBサイトでご確認ください。

<http://www.jmrc-chubu.jp/rally/>